

上田及淵
述

三則童諭外篇
說教自在

全

特35

746

四

一本

自	函	架	號
一	冊	三	六
一	冊	三	六
一	冊	三	六

014096-000-6

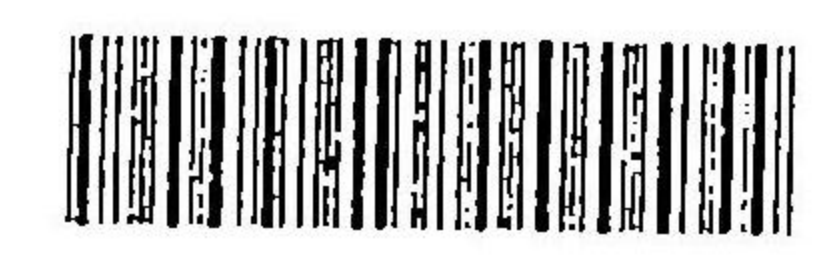
T35-746

三則童諭外篇 一名。說教自在

上田 及淵 / 著

M8

ABB-0360



著及上
述淵田

三則童諭外篇

一名說教自在

全

特35

746

四
一
本

館籍書會育教本日大			
函架號	二二六號	三架	一七函
一册			

東

新

一

明治八年八月官許

紀元二千五百卅五年新刻
上田及淵著述

三則童諭外篇

三則童諭外篇

全

一名
說教自在

浪華書賈

田中宋榮堂

特35
745

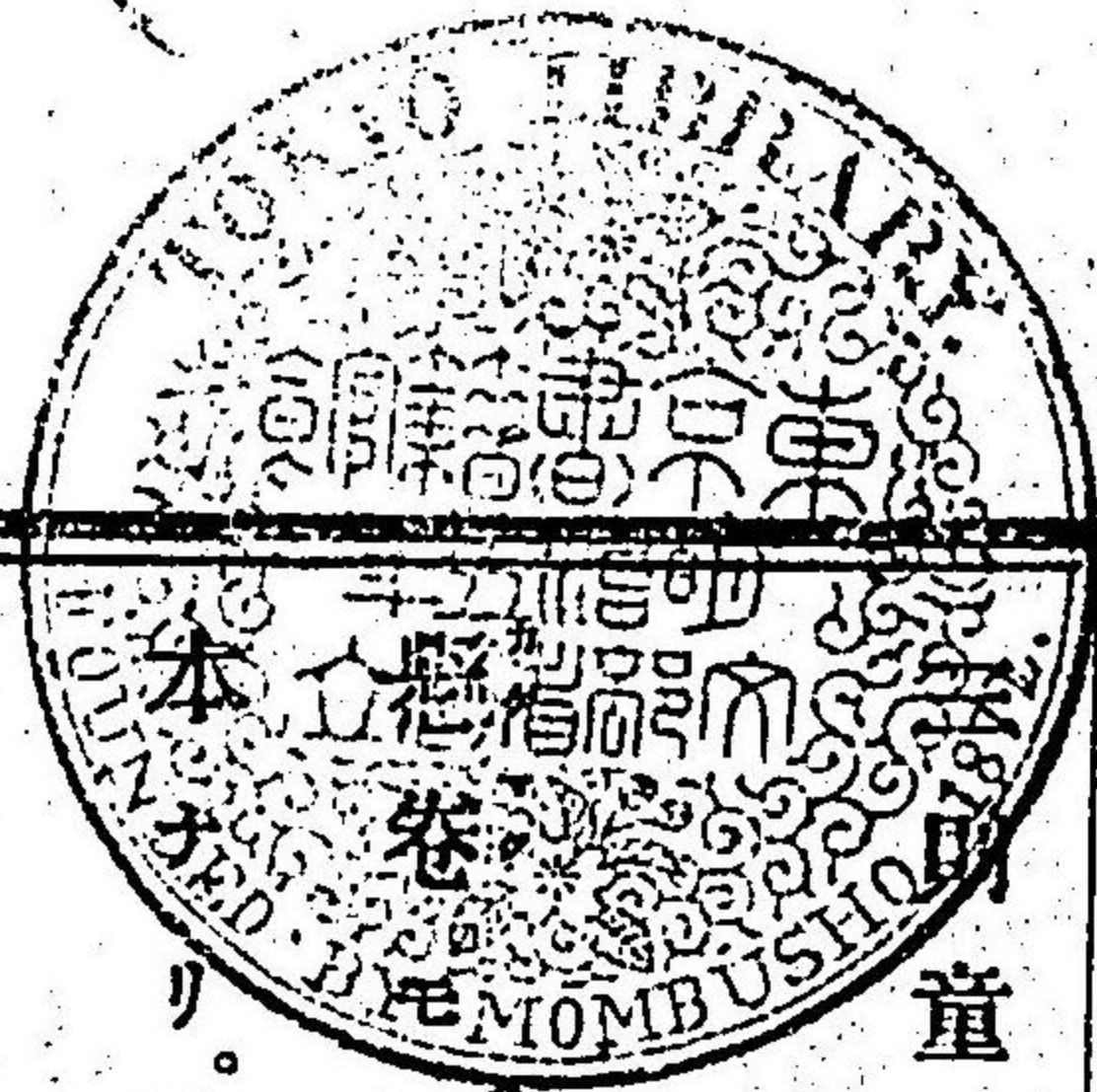
三則童諭外篇一名說教自在

明治八年圖書局發行

懸卷モ長キ教憲三則ハ。人世界ノ大法政教ノ大本ナリ。譬ヘハ猶大陽日輪ノ中點ニ有リテ指使スレハ。數十ノ遊衛ソノ大光明ヲ得テ。方向ノ軌ヲ知テ從事スルガ如シ。道ハ本ヨリ唯一ナルヘク。然レハ教モ亦一筋ナルヘキヲ。其廣大ナルガ故。人智ヲ以テ此處ヲ捕ヘ彼處ニ走リ。唯一隅ニ固執シテ。自ラ變通スルノ機活ヲ知ラサルヨリ。門流宗派。數多ニ分レテ一定セス。因テ或ハ流儀

三則童諭外篇

一



童諭外篇一名
教自在

明治九年圖書局交付

長キ教憲三則ハ。人世界ノ大法。政教ノ大
 本ナリ。譬へハ猶大陽日輪ノ。中點ニ有リテ指使
 スレハ。數十ノ遊衛ソノ大光明ヲ得テ。方向ノ軌
 ナ知テ從事スルガ如シ。道ハ本ヨリ唯一ナルヘ
 ク。然レハ教モ亦一筋ナルヘキヲ。其廣大ナルガ
 故人智ヲ以テ此處ヲ捕へ彼處ニ走リ。唯一隅ニ
 固執シテ。自ラ變通スルノ機活ヲ知ラサルヨリ。
 門流宗派。數多ニ分レテ一定セス。因テ或ハ流儀

三則童諭外篇

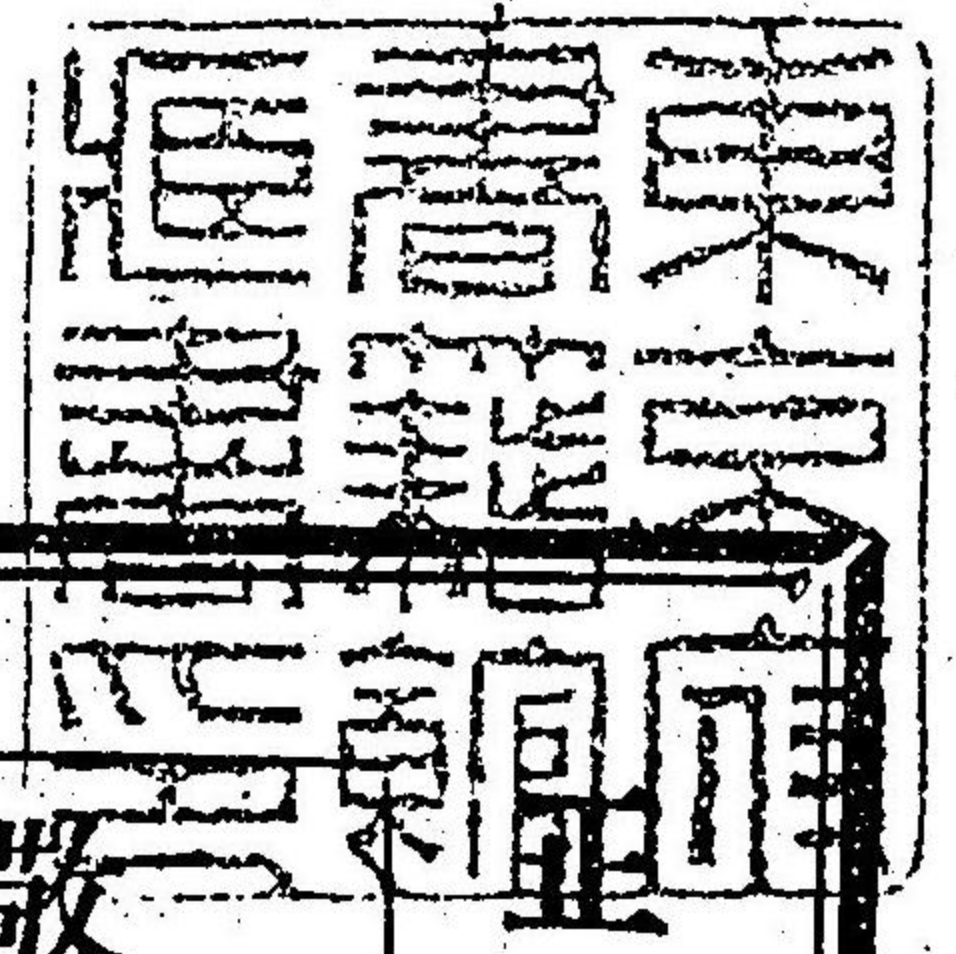
ハ。名人ノ僻ニ法ヲ立タルナリ。ト云。説モ有ナリ。
故ニ儒ニ學派アリ。佛ニ宗派アリ。道ニ分門アリ。
洋ニ分科アリ。各人心ヲ警シ。智覺ヲ磨キ。人世界
ニ益アリト雖モ。其繁キニ至テハ瑣小ノ人智。悉
ク受容ル。トアタハス。遂ニ分レテ宗黨ヲ立ル
ニ至ル。所謂過ツニ毫釐ヲ以スレハ。差フニ千里
ヲ以スト云ヘルナリ。皇上其斯ノ如キヲ憐ミ給
ヒ下スニ此教憲三則ヲ以ス。實ニ人世界ノ大法
政教ノ大本トスルニ足レリ。斯ノ如ナレハ諸道
諸宗ノ碩學達者。各其御心ヲ心トシテ。我執ヲ離

レ。開化ヲ悟リ。戮力親和シテ。刻苦勉勵日夜烝民
ヲ諭シ。上意ニ副フヲ以任トス。今ハ天下ニ偏ク。
諸縣諸郷ヨリ津々浦々マテ。教導ノ偏布スル。盛
ナリト謂ツベシ。然ルニ聽衆ノ心々。未ダ彼ノ偏
頗我執ノ僻ヲ免ヌカレス。猶學風宗風ヲ守ル者
少ナカラザルベシ。教導ノ任實ニ難シト云ザル
ベケンヤ。爰ヲ以。今其然ル所以。且教導ノ一致ス
ベキハ。其説得ノ用心ニ在ルベシト思ヒ取レル
吾一己ノ鄙見ヲ著ス。庶幾クハ。同志教導ノ参考
ニモナランカト聊下ニノブルノミ。

然教憲ハ三條ニシテ六事ナリ。是ヲ三條六事ト云フ。此ハ今般皇上ノ御私意ヲ以テ。偶然ニ定メ給フ譯ニアラズ。天地ノ始ヨリ。宇宙間ニ磅礴タル大道ナルヲ云フモ更ナリ。今一一其出所ヲ掲ケ。御歴代御奉行アソハサルノ願末ヲ舉ケ試ルニ。未ダ其名無シト雖モ。其實敬神ハ伊邪那岐大神。天照大御神ニ始リ。愛國ハ二尊ニ始リ。天理人道モ亦二尊ニ始リ。皇上奉戴ハ天照大御神ニ始リ。朝旨遵守ハ大國主神父子ニ始ル。此道ヲ天照大御神ヨリ。邇々杵尊ニ傳ヘ給ヒ。邇々藝尊ヨリ

御歴代へ傳へたまフナ。今上天皇受サセ給ヒ。今マサニ廣ク世ニ顯シ給フ御趣意ナレハ。御書中弘キ厚キ御意味有ヘシ。輕々シク拜讀シ過ユスヘカラズ。凡テ書ヲ見ルニハ。先其大意ヲ領得シ。一言一語ヲモ仔細ニ提擲シ。然後ニ其趣意ヲ探リ得ベキヲ勿論ナリ。マシテ詔勅令條ノ若キニ至テハ。數行片紙モ。深ク叡慮ヲ注サセラレタル御事ナメレハ。此三條ニ於テハ。殊ニ諸道碩學達者ノ面々。意ヲ銳シ汗ヲ流シ。千狀万態ニ解キ示サルノ故。聽衆其解法ヲ知ラサレバ。人々異襟

ニ説ナストヤ聽訛ナシ。然ハ折角ノ苦心モ。畫餅ニ屬セン。ノ傍痛ケレハ。左ニ示ス所ノ法ヲ以テ。諭聽セバ。自他ノ間。兩ツナカラ得ル。多ホカルベシ。因テ今其自得スル處ヲ吐露シテ。以テ同志ニ謀ル。



解

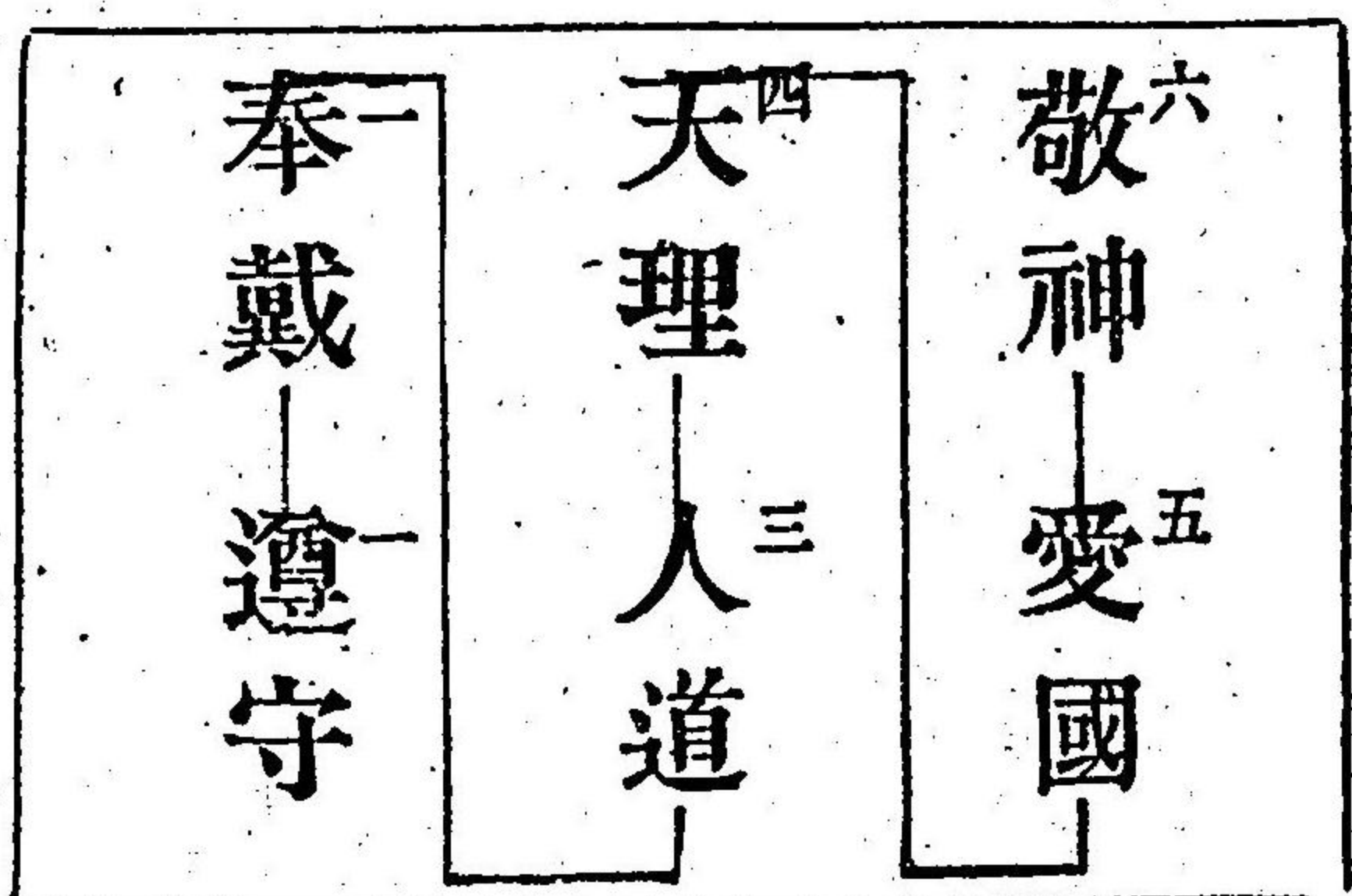
敬神 愛國

天理 人道

奉戴 遵守

此圖ノ如ク拜讀スレハ。先ツ敬神ノ道ヲ知リテ。愛國ヲ知ラサル者無ケレハ。天理ニ合フ。勿論ニテ。人道ヲ棄ント欲スレモ得ズ。而人道ノ極ハ。皇上ヲ奉戴スルヲ以主トス。然ハ今日ノ朝旨又遵守セサルヘケンヤ。是三條ノ表ナリ。

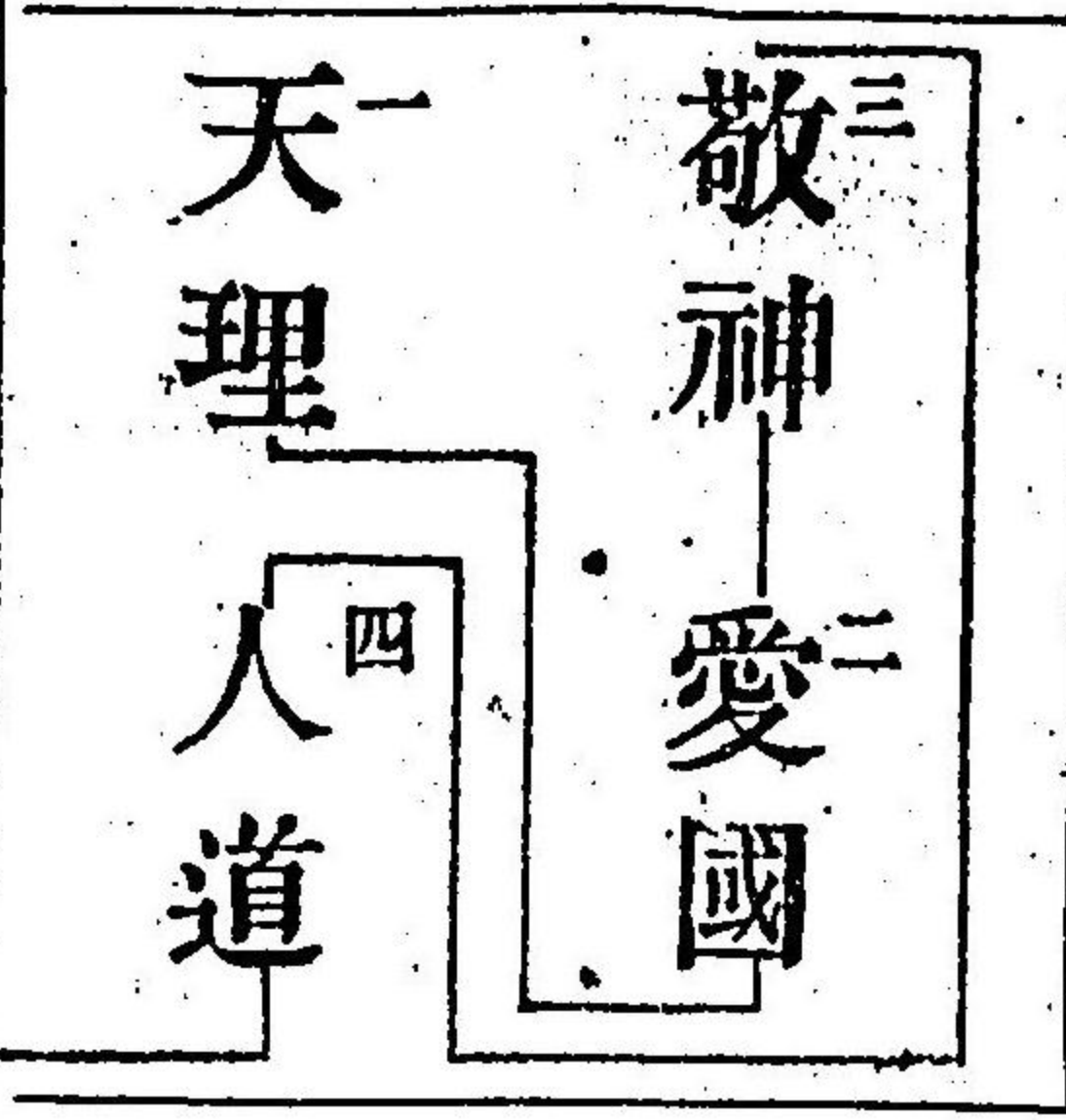
變解



此圖ノ如ク拜讀スレハ。今朝廷ヨリ下シタマフ令條ヲ遵守スルゾ。今日ノ一大事ナレバ。其イヅル所ノ皇上ハ。何ノ御正統ナルコトヲ知ルヘク。コレヲ知ラサレハ。人道ニハツレ天理ニ合ハズ。モトヨリ愛國ノ何物タルヲ知ラズ。然レハ世

ニアル甲斐モ有間敷ク。禽獸ニモ同シカルヘシ。ツノ禽獸タルヲニクマバ。能々天地神明ノ照覽ヲハガ。本心ニ立カヘリ。神明ニ愧サルノ行ヲ爲ヨリ外有マシキナリ。

直斷解

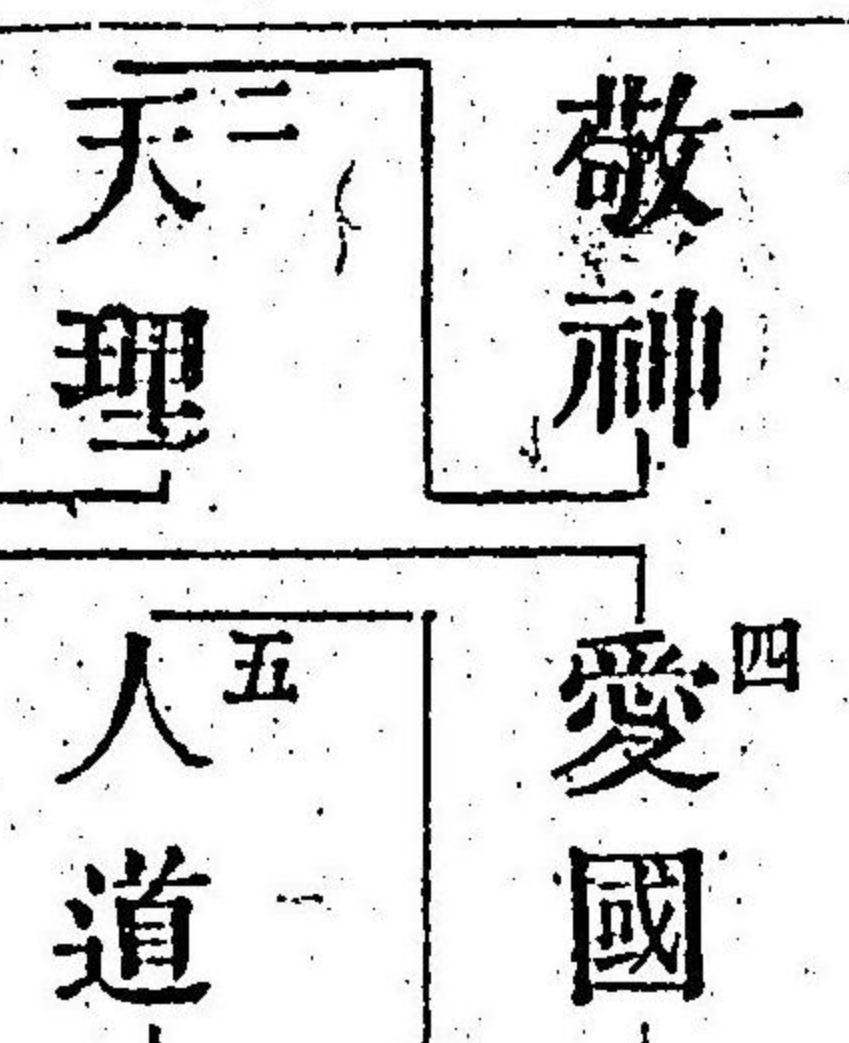


此圖ノ如ク拜讀スレハ。天理ノ應ヲ知ラント欲セバ。愛國ノ義ヲサトリ。而後ソノ真情敬神ノ道ヨリオクルコト。思ヲ潭メテ了ルヘ

奉戴^五—遵守^六

其イダシ給フトコロノ朝旨ヲ遵守セサルノ措置所行。聊モ有間敷ナリ。

平分解



此圖ノ如ク拜讀スレバ。敬神ノ義有テ。實ニ天理ノヤムベカラサルヲ知レバ。皇上天ヲ戴クノ行ヒ云モ更ナリ。其御國ハ我祖先墳墓ノ

ク。人道ノ常ヲ行ハント欲セバ。皇上ノ大恩ヲ忝ナミ。

奉戴^三—遵守^六

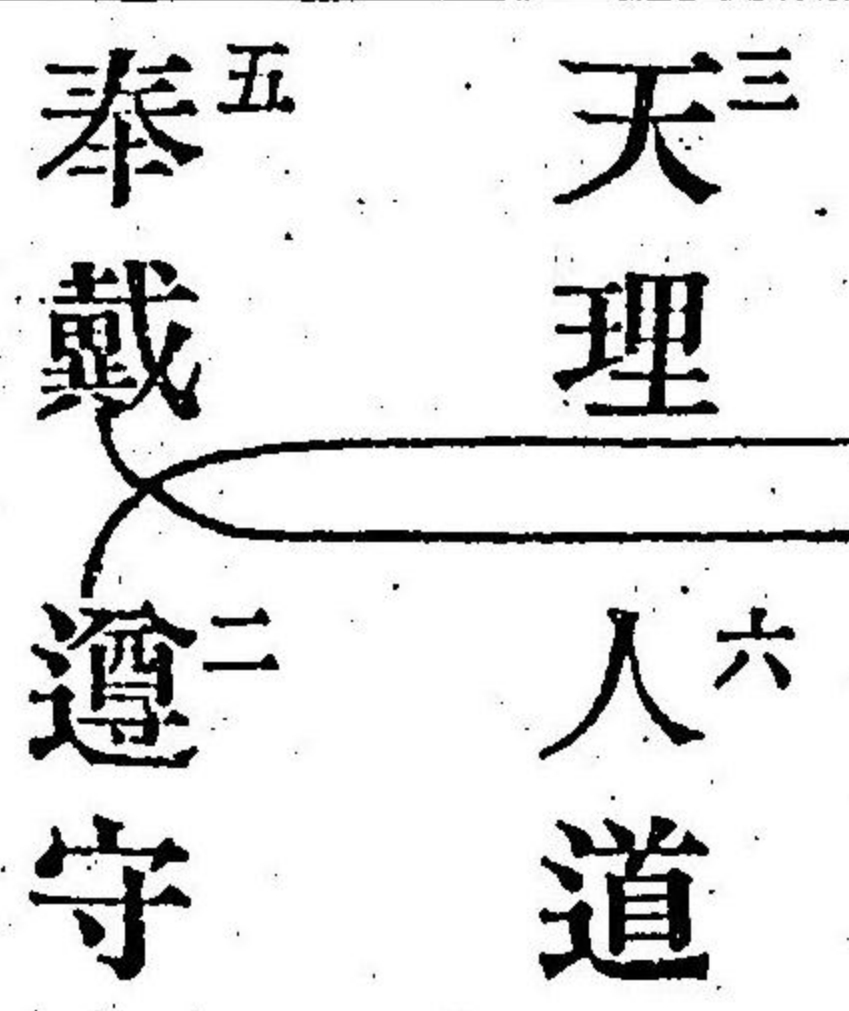
等ノ昌ナル所以思ハズンハ有ヘカラズ。是人情ノ固有スル所ニシテ。此ヲ全クセンヲ願フ可キナリ。

在ル處ナレバ。之レヲ富マシ之レヲ強クシ。産業貿易

兩父解

敬神^一—愛國^四

此圖ノ如ク拜讀スレバ。敬神ノ實ハ朝旨遵守ニ留リ。朝旨遵守ヲ知ル時ハ。天理

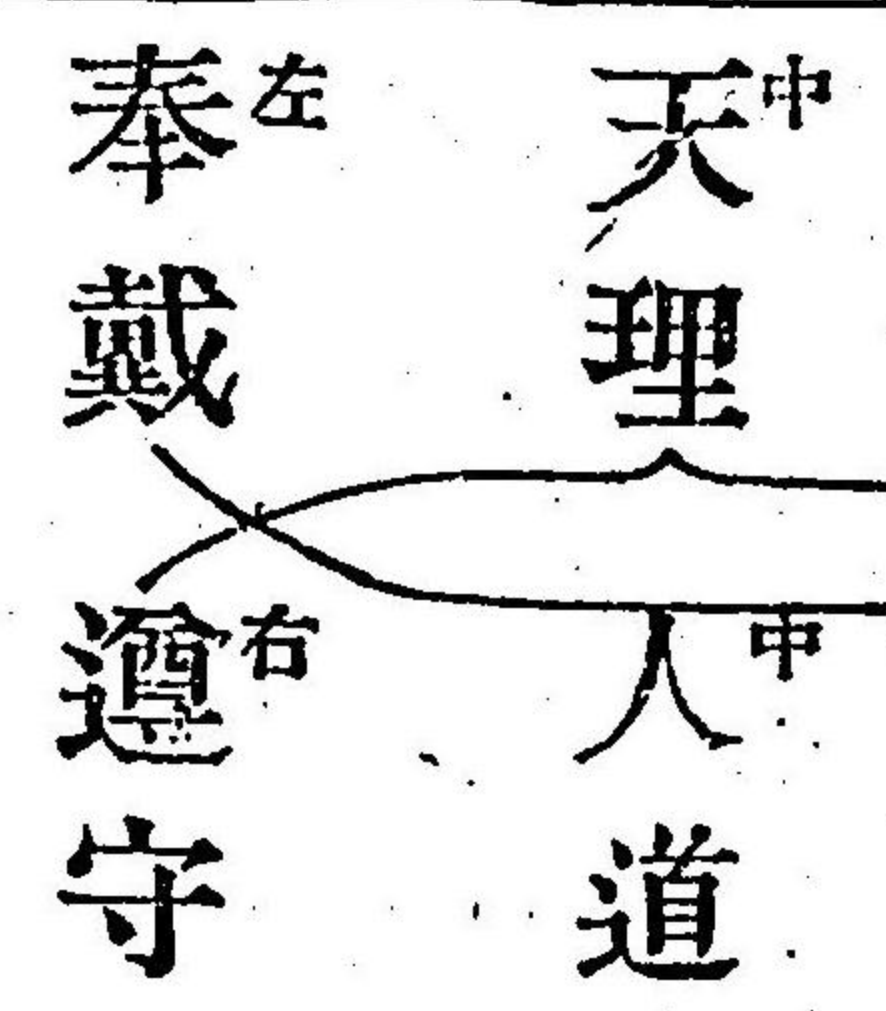


カナラサル時ハ。前後ノ二條ノ御趣意遵守シ
得サランコトヲ畏ルヘキナリ。

抱合解

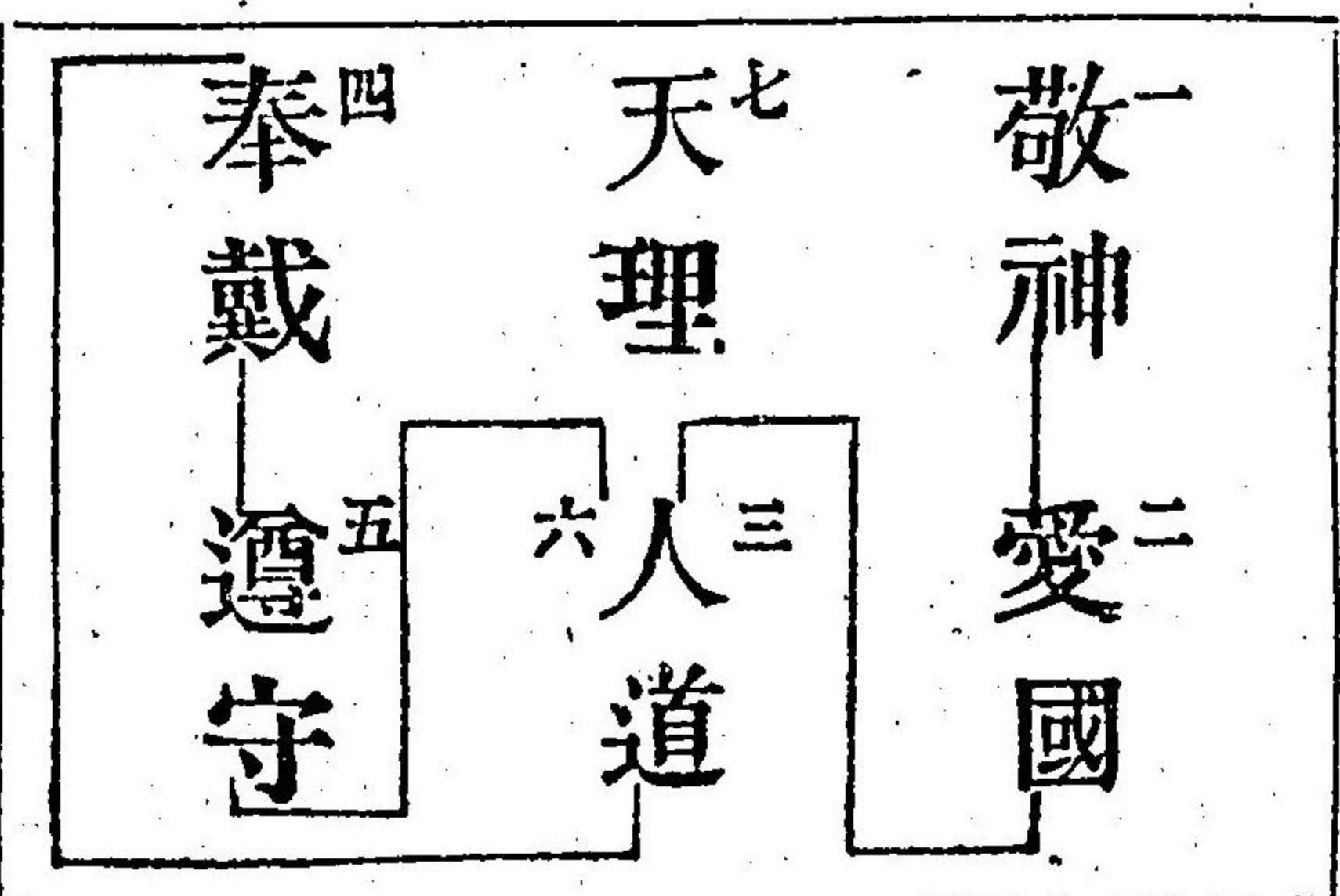


此圖ノ如ク拜讀スレバ。天
理明曉ノ地ニ居テ。下ヲ眷



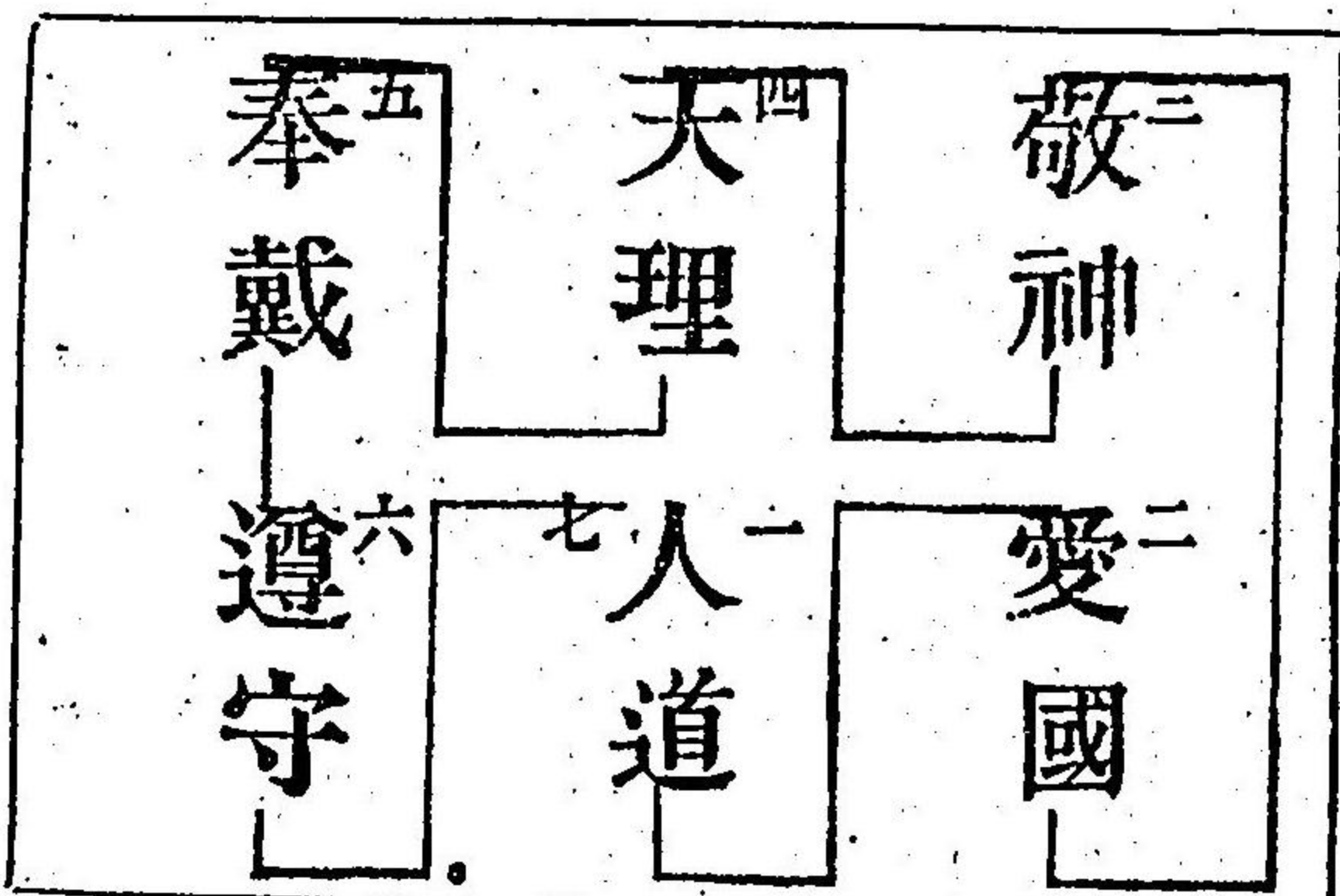
我慢ノ所行聊カモ有間敷ク。人道明知ノ場ニ
居テ。仰テ是ヲ見レバ。右ニ敬神ノ畏ルヘキ有
テ。日夜身ヲ省ミ。獨ニ謹テ。造化ノ大恩ヲ知リ。
是ニ報ユルニハ。必ズ天統ノ皇上ニ仕ヘ奉リ。
粉蠶ノ忠節ヲ尽スベキコト勿論ナリ。

提中解



此圖ノ如ク拜讀スレバ。敬神ノ用ハ愛國ニ有リ。愛國ハ。人道ノ常。皇上奉戴ノ用ハ。朝旨遵守ニアリ。能ク遵守シ得ルトキハ。人道ノ諸用オノヅカラ生々トシテ。ノチ天理ノ本体赫々トシテ。明瞭ナルヘシ。

循環解



此ノ圖ノ如ク拜讀スレバ。夫レ人道ノ本ヨリ万物ノ先タルコトハ。其國ヲ愛スルコトヲ知レバナリ。其國ヲ愛スルハ神祇ノ造化ニムクユル所以。神祇ノ造化ニ報ユルハ天理ヲ明ニスル所以。天理明カナル時ハ。

皇上ヲ戴カズハ有ベカラズ。皇上奉戴ノ極ハ。朝旨ヲ遵守スルニ在。爰ニオイテ人道初テ成レリト謂ツベシ。

通解

敬神 愛國

天理 人道

奉戴 遵守

敬神 古事記曰。於是二柱神議云。今吾所生之子不_レ良。猶宜_レ白天神之御所云云。爾天神之命以布斗麻邇爾ト相而云云。是二尊スヲ。別天祖神ヲ敬シ給フ_レ斯ノ如シ。故無_レ已事御助ケモ有ナリ。神代紀曰。復見天照大神新嘗時。則陰放戾。

於新宮。又見天照大神方織神衣居齋服殿。云云
 是新嘗ハ。青人草万民ノ爲ニ。御手ツカラ豐受
 比売神ヲ祭ラセ給ナリ。神衣ト申モ御備ノ料
 ナルヲ可奉伺此ヲ神祭ノ初トス。又曰天照大
 神中入千石窟閉磐戸而幽居焉。六合之内常闇
 而不知晝夜相代云云故思兼神深謀遠慮云云
 古事記曰思金神云云召天兒屋命太玉命而内
 拔天香山之真男鹿之肩拔而取天香山之天波
 波迦而令占合麻迦那波而云云神代紀一書曰
 天兒屋命云云廣厚稱辭祈啓于時日神聞之曰

頃者人雖多請未有若此言之麗美者也云云是
 兒屋命太玉命盡誠勞身慇懃ニ祈リ給ヒシカ
 バ大御神ノ感動マシクシテ斯ノ如シ崇神天
 皇紀七年詔曰略上恐朝無善政取咎於神祇耶云
 云於是天皇幸于神淺茅原而云云便別祭八十
 群神仍定天社國社及神地神戶云云此天皇ノ
 神祇ヲ敬シ給フ。今更論ナシ。延喜ノ御式モ
 是ヲ基礎トセラレシル。其外令條ノ書
 及國史ニ至マデ云以行ハ一トシテ敬神ノ義
 ニアラザルハナシ。

愛國。古事記曰。如此言竟而中故因此八島先
 所生謂大八島國。又曰。爾天照大御神聞驚而詔
 我那勢命之上來由者必不善心欲奪我國耳云
 云。神代紀一書曰。素戔嗚尊曰。韓鄉之島是有金
 銀若使吾兒孫天所御之國不有浮寶者未是佳
 也云云。又曰。天照大神因勅天孫曰。章原千五百
 秋之瑞穗國是吾子孫可王之地也云云。又曰。齊
 空空國自頓丘我國ノ地名トキユニ天下見國
 行去。到於吾田長屋笠狹之御崎云云。故天孫留
 住彼處古事記曰。邇々藝命中略詔之此地者朝日

之直刺國夕日之日照國也。故此地甚吉地詔而
 於底津石根宮柱布斗斯理於高天原氷椽多迦
 斯理而坐也。是地球中百八十國ハアレドモ
 此國ナシモ神等ノ斯願ミ給ハ深キ御トハレ
 有ナルヘシ。中ニツキテ大御神ノ天御國ヲ
 愛シ玉フモ父命ノ詔命ヲ重ミシ玉フ。進雄
 命邇々藝命ト御同意ナリ。然レハ右ニ引ル條
 是皆地國ト云詞字眼ナレハナリ。此外猶多シ。
 効ヘ知ルベシ。

天理 古事記曰。上度事戶之時。伊邪那美命言

愛我那勢命。爲如此者。汝國之人。草一日。絞殺千頭。爾伊邪那岐命。詔愛我那邇妹命。汝爲然者。吾一日立千五百產屋。是以一日必千人死。一日必千五百人生也。云云。神代紀一書曰。伊奘册尊云。直獸飯而盟之曰。族離不負於族。云云。神代紀曰。伊奘諾尊功既至矣。德亦大矣。於是登天報命。仍留宅於日之少宮。云云。是万物ノ化成ヨリ。死生榮枯ノ定筭ヨリ。吉凶禍福ノ定理ニ至迄。此二神ニ起本スルヲ悟ルベク。且伊奘諾神ハ永ク日之少宮ニ留リ坐テ鬼神万類ヲ司リ。皇

天上帝ト仰カレ給ヒ。司命ノ職ニ居給ヘハ恐レ畏ム可キヲ固ヨリナリ。而地球ニ大國主神皇孫命坐テ。其御事ヲ幽ト顯トニ持分ケ玉フ。人多クハ是ヲ知ラス。又二尊ハ互ニ忿怒ヲ含テ。無理ク離別シ玉フト思ハ誤也。其御心ノ截斷シ給ハザルヲ。愛我云々ノ御詞ニテ炳キナヤ。嗚呼。二尊真ニ離別シ玉ハ。天地ノ造化今日ニ至ル可キヤ。思ナ此ニ潭ムベキナリ。今姑ク分テ五類トス。曰。化生。神理ニ格物窮理ノ學ヲ習合シテ悟ルベシ。曰。覆育。上ニ同シ。曰。報應

神理ニ梵玄ノ説ヲ折衷シテ悟ルヘシ。曰死生。日榮枯。神理ニ梵玄洋ノ理ヲ融釋シテ悟ルベシ。人道ニ尊端ヲ夫婦ニ造シ玉ヒシヨリ。人道自ラ次々ニ備リテ。今日ニ至迄行ハレテヤマズ。今一二云ハ、鎮火祭詞曰。神伊佐奈伎伊佐奈美乃命。妹背二柱嫁繼給。臣國乃八十國島乃八十島乎。生給比。八百万神乎。生給比云云。古事記大國主神歌曰。上伊刀古夜能伊毛能美許等云々。和賀牟禮伊那婆云々。和賀比氣伊那婆那云々。我群去被牽。

迦士登波那波伊布登母云云。宇那迦夫斯那賀那加佐麻久阿佐阿米能佐疑理邇多々牟叙和加久佐能都麻能美許登云云。爾其后歌曰。上阿波母與賣邇斯阿禮婆那遠岐云々。遠波那志那遠岐云々。都麻波那斯云云。此等ヤ夫婦ノ宜ク守リ勤ムベキ龜鑑ナルベキ。神代紀曰。生日神號大日靈貴。中略曰。吾息雖多未有若此靈異之兒。不宜久留此國。自當早送于天而授以天上之事。是時天地相去未遠。故以天柱舉於天上也。又一書曰。是時素戔鳴尊年已長矣。云云。對曰。吾欲從母於

根國只爲泣耳云々。是父子ノ親ニシテ。天照大御神ハ奉勅テ。天上ノ事ヲ知食シ。長ク伊奘諾尊ニ供事シ給ヒ。月弓命ハ。父命ニハ逆ヒ玉フ如クナレ。幽契アリテ。長ク母伊奘再尊ニ夜見ノ國ニ孝養シ玉フナリ。顯宗天皇紀曰。二年二月朔。阿閉臣事代衙命。出使于任那。於是月神著人謂之曰。我祖高皇產靈尊。有預銘造天地之功。宜以民地奉我月神云々。事代由是還京具奉以歌荒樸田。夏四月朔。日神著人謂阿閉臣事代曰。蓋天地鑄造以磐余田。獻我祖高皇產靈尊。事ノリタフノ語ヲ略ス。

代便奏依神乞獻田十四丁。是日月二神ノ祖ヲ敬シ玉フ。斯ノ如シ。況ンヤ蒼生ニシテ豈デソナ敬セザランヤ。神代紀曰。天照大神之子正哉吾勝々速日天忍穗耳尊云云。生天津彦々火邇々杵尊。故皇祖高皇產靈尊。特鐘愛憐。以崇養焉云々。古語拾遺曰。天照大神育吾勝尊。特甚鐘愛常懷腋。下稱曰。腋子云云。コレ父子ノ道ナリ。天祖ノ子孫ヲ愛シ玉フ。斯ノ如シ。神武天皇紀四年詔曰。我皇祖之靈也。自天降監。光助朕躬。今諸虜已平。海內無事。可以郊天神。用申大孝者。

也。乃立靈時於鳥見山中。其地號曰上小野稜原。下小野稜原。用祭皇祖天神焉。コレ子ノ道ナリ。天朝ノ祖先ヲ尊ビ。大孝ヲ申ヘ給フ。斯ノ如シ。神代紀曰。於是素戔鳴尊請曰。吾今奉教將就根國。故欲暫向高天原與姊相見而後。永退矣。敕許之。云云。古事記曰。略故雖然。為天照大御神者。登賀米受而告。如尿醉而吐散。登許曾。我那勢命。為如此。又離田之阿埋溝者。地矣。阿多良斯登許曾。我那勢命。為如此。登詔雖直。云々。是天照大御神ハ。須佐之男命ヲ防ギ疑ヒ。賜ヒ。須佐之男命

ハ。天照大御神ニ逆戻玉フヤウニ見ユレ。不。然由ハ。姊命ト慕ヒ玉ヒ。我那勢命ト愛シ賜ヒシ御語ニテ。其聖情ヲ奉伺ヘク。後遂ニ如理。須佐之男命大國主神ヲ遣シテ。御孫命ヲ奉助シメ賜ヒシ。全大御神ノ功業ヲ下ニ輔ケ賜フナリ。是父母二神ノ御理ト同。又古事記神武天皇件末曰。爾神八井耳命。讓弟建沼河耳命曰。吾者不。得殺仇。汝命既得殺仇。吾雖兄。不宜為上。是以汝命為上。治天下。僕者扶汝命。為忌人而仕奉也。コレ兄弟ノ序ナリ。仁德菟道御辭讓モ。顯宗

仁賢ノ御友愛モ。此處ト異ナルコナシ。古事記
 曰。神產巢日御祖命答告。此者實我子也云云。故
 與汝葦原色許男命爲兄弟而作堅其國故自爾
 大穴牟遲與少名毗古那。二柱神相並作堅此國
 神代紀一書曰。先是天稚彥在於葦原中國也。與
 味耜高彥根神友善云云。時味耜高彥根神忿然
 作色曰。朋友之道理宜相用故。不憚汚穢遠自赴
 云云。ユレ朋友ノ信ナリ。神代紀一書曰。故天照
 大神乃賜天津彥々火邇々杵尊八坂瓊曲玉及
 八咫鏡草薙劍三種寶物。又以中臣上祖天兒屋

命。息部上祖太玉命。媛女上祖天鈿女命。鏡作上
 祖石凝姥命。玉作上祖玉屋命。凡五部神使配侍
 焉。又曰。于時大伴連遠祖天忍日命。帥來目部遠
 祖天穗津大來目命。背負天磐鞞。臂著稜威高鞞。
 手捉天梶弓。天羽々矢。及副持八目鳴鏑。又帶頭
 穗劔而立。天孫之前。遊行降來云云。又曰。天孫且
 降之間。先驅者還白。有一神居天八衢云云。是時
 衢神問曰。天鈿女汝爲之何故耶。對曰。天照大神
 之子。所幸道路。有如此居之者。誰也。敢問之。衢神
 對曰。聞天照大神之子。今當降行。故奉迎相待。吾

名後田彦大神云云。コレ君臣ノ大義。人道ノ極ナリ。後賢持之子。井光石押分之子。可美摩運命等ノ神武天皇ニ奉仕シモ此趣ナリ。天神ノ神謀以テ無窮ニ至ルベシ。又皇統ノ連綿タル所以ナリ。今分テ五綱トス。曰夫婦。皇典ニ儒書ヲ添見テ悟ルベシ。曰父子。曰兄弟。同上。曰朋友。皇典ニ儒書洋書ヲ合見テ。万國交際ノ道ヲモ悟ルベシ。曰君臣。他書ニナサク見當ラヌ。專ラ神書皇典ヲ拜讀シテ悟ルベシ。皇上奉戴 神代紀一書曰。宜爾皇孫。就而治焉。行矣。寶祚之隆。當

與天壤無窮者矣。云云。高野天皇紀。神護景雲三年。八幡大神託和氣清磨宣曰。我國家開闢以來。君臣定矣。以臣爲君。未之有也。天之日嗣。必立皇緒。無道之人。宜早掃除。又歷朝詔詞ノ首曰。現御神止所。知大八洲國。天皇我詔旨。良麻宣給大命乎。諸聞食止宣。コレ皇上奉戴ノ勅クマシキヲ知ルナリ。

朝旨遵守 神代紀曰。時言代主神謂使者曰。今天神有此借問之勅。我父宜當奉避。吾亦不可違。云云。又曰。故大已貴神則以其子之辭。白於二神。

曰我怙之子既避去矣故吾亦當避如吾防禦者
 國內諸神必當同禦今我奉避誰復敢有不順者
 云々又一書曰於是大己貴神報曰天神敕教慙
 慙如此敢不從命乎吾所治顯露事者皇孫當治
 吾將退治幽事云云コレ大己貴命父子不朽ノ
 遵守ヲ定メ玉フナリ。○爰ニ第一心得ベキハ
 旨ヲ體スベシ。明ニスベシ。令ムベシ。此三用語
 ナ熟領セザレハ上ノ御趣意ヲ熟知セザラン
 一ヲ恐ル先ツ此三勅語ヲ連テテ解カバ朕ハ
 敬神愛國ノ事ヲ歷朝奉シ居ルヲ以テ汝等此

旨ヲ體認シテ汝ガ本分ノ天理人道ヲヨク明
 ラメ。而后末條奉戴遵守ノ事ヲ万民ニ知ラシ
 メヨ。コレ一大事ゾトノ御事ナリ。故御三條ノ
 奥ニ右三條兼而奉戴之說教等節ハ尙能注意
 致シ。御趣意ニ不悖。相心得可申也。トハ詔ヘ
 リ。

上件九解法ハ愚心ヒソカニ得ル所ヲ試ミニ著
 ハセルナリ。猶委細云ハ、何程モ有ベク。右等ノ
 明證ヲ拜讀シ奉レハ。此教憲ノ決シテ皇上ノ御
 私意ニ出ザル事ヲ知ルニ足ルカ、ル目出度御

深意ナレハ。叮嚀ニ反復シ拜誦シマツリ。能々心ニ會得シ。努々忽ニスベカラズ。カレ教官講師。心ヲ碎キ精ヲハゲマシ解ク所ヲ。聽衆嗒然トシテ路人ノ如ク聞ス。ヨシ。ユレテ我身ノウヘニ有リトモシラズ。亂ニ說者ノ巧拙ヲ論シ。アタカモ芝居軍談ヲ見キク如ク。ソノ座ギリノ興ト思ヒス。ゴスハ。實ニ淺閒シキコトナリ。爰ヲ以テ教官ハ云フニ及バズ。縣官區戸兩長ノ人々。及ビ士族在町ニテモ。天朝ノ御爲万民ノ保全ヲ欲スル人ハ。一人ニテモ教導センコトヲ心懸クト云ヘリ。甚

タフトキヲナリ。スベテ講席ノ禮ハ。講師先ツ座ニアガリ。教憲ヲ裝ヒノマヽニ戴キ棒ゲ。心中ニ右三條ハ。教部省ヨリ己レニ仰セ渡サル。御趣意ナルコトヲ感佩シ。座ノ左ニ奉シ。次ニ神教要旨。或ハ御神戒ヲ讀ミキカセ。サテ自ラ右ノ三條ヲ承リ居ル。コトヲ咄シ。次ニ古事記。書紀。及ヒ諸神典古書。イツレモ時ニ合ヒタル御文ヲヨミアゲテ。靜カニ解キ出ス御定ニテ。說教ノ間ニ延ル處ノ趣即此三條ノ御趣意ナリ。故エニ。コノ三條ヲ高聲ニ戴讀シ。誇顔ナルハ宜シカラズト。承ル

ユモ序ナレハイフナリ。兎ニモ角ニモ御教憲ハ
未ニ御趣意ノ有ルコトヲ悟リ。中ニモ奉戴遵守
ノ四字ハ。一篇ノ眼目タルコトヲ悟ルゾ肝要ナ
ル。ナホ教導ノ補ナヒトナルベキ歌トモヲ數首
下ニ贅セリ

新葉集後村上天皇御製
行末と思ふをむごーあまつ社國つ社のあらむかきやは

風雅集 後西園寺入道前太政大臣實兼
天つ神國つ社とこかまてをまことなうくる道をかえらる

新拾遺集 阿保經覽
思ひらむをえりりとぞとせは天のいた戸をむらけとらまし

風雅集 山階入道左大臣實隆
岩戸出し日あさハ今をくそらぬハ恐き御代をこそ照らとらん

雪玉集 道遙院内大臣實隆
めよみえぬ物とはいそー明く世の月日そ本の神のむらり

新葉集後村上天皇御製
九重よ今も真澄の鏡こそ猶世扱てらひむらりなり

風雅集 權大納言公蔭
あま照とてかきあまつしをます鏡傳をまする世の曇あらむ

新續古今集 達智門院
神風やふしつこの宮のまが柱をた心よ世扱ををらる

續後拾遺集後醍醐天皇御製

皆人けこつるを磨け千里ふる神のふんこのくさるよめさる

家集

賀茂真淵

そふとさや天皇をかむるあらみさまつらさるゆの新さ

同

三光院内大臣實枝

神を又らみよや祈るいやつさよ君のきみを一守る代さ

續古今集

平長時

久よへて君よおせと守るらし人の國よりとくくにのるえ

同

後醍醐天皇御製

瓢形の天よりたると玉かこの道ある國そいまのこくく

新玉津島歌合

前大納言公忠

幾千代もまをてはほどてと一後島の大和志まねは神の國とて

風雅集

民部卿爲定

あさつさき惠波四方よとき鳥や大和志まねれいまさかゆなり

雪玉集

道邊院内大臣實隆

あゆきてをるこ一人を住つくや々よ日た本の光ふるらん

新葉集後龜山天皇御製

あつめてハ國の光とあややぞむ吾まと照せ夜はの螢は

家集

平大平

遠し國志らぬとつひの言れをせぬまみは道よ行のひたり

鈴屋集

平宣長

くゆ物いみちてをさゆる腹の中よ長く残るをてを記書なり

同

あやしあふいとまを有人のいとまなしとて書たまぬか

同

書よえい又ちくひさきたのーとたふとぬ人をーらぬありたり

同

千萬のゆとを年經てたこつらすよえとこつる物よそ有る

家集

權中納言源宗武

書たまてあそひとつるを網れ中にあつまる魚のたのーむのこ

春葉集

荷田春滿

親れたやの世城くみーらる水並れ跡や子の子れさるよいせむ

新撰六帖

右大辨入道光俊

とそありけ朝まつりととくくれと世に捨ぬをさかーゆれみ

万葉集

大伴宿禰家持

益荒男れ心れそかゆ大君れみとのときを聞いたゆとみ

風雅集伏見天皇御製

天つそら照日けきしよ有なむらへん心ひのへまふまをた

鈴屋集

平宣長

いと子とともごのうらさきて靈ちそめ神のみまごのさむけはまじり

新撰六帖

右大辨入道光俊

出羽なふむらかのみ鷹立かへりねやけ為よとこへんさるあり

後撰集

高津内親王

直き木河まかしの枝とある物を毛さぶさむかたよりさるりあり

家集

正覺法師

盛おも問ぬ人ねかへもる花のあとととふこと情ありなむ

同

藤原為顯

えらふ一やつゝあゝの蛙とせきうりかかきささむさむさむ

春葉集

荷田東滿

世どうとと難波けえやを恨むしあひかたあへんあ身を知りて

閑田詠草

伴蒿 磯

善惡ようけい習を思ふよあやうかたのまじりなふり

風雅集

從三位為子

心よよ五し思ふよはあをぬぞ人を恨みむこと理とあむ

續後拾遺集

前中納言定房

一がらふ人とも身をも思ふ哉うしあひと繩け直るあひのそ

東哥

橘枝直

野邊に生るいさしむら竹いさしめぞ人け為よあひあひせむ

うけらう花

橘千蔭

竹の根け下をひ渡るふのほを今日け日けあひし喜とあ

續後撰集

寂然法師

最上川人ともたせばいさ舟のうりりて沈む物とことあけ

拾遺集

不知讀人

手枕のよとあまけ風も寒めや身もなると一け物よそ有なむ

三章集

少將源定信

ことたせはたさるよをなせして何くれとさるかうのほを猶さるへんあ

家集

賀茂真淵

そまこころ人とある世どうき時いそむらまほしくれたあそらなむ

六帖詠草

小澤盛庵

なごわさよれれか心さかくれぬぞ人をさらとれたひさるうぬ

聖廟法樂和歌後柏原天皇御製

いりよせそ月日とれたる心よて雲けうしあひ世も照るなむ

新後撰集龜山天皇御製

世を思ふは神のみこころをいかにしよとてしんんに世を思ふは

新千載集伏見天皇御製

世を思ふは心けうちのなごをまたみけ愁なるを悲し

新拾遺集伏見天皇御製

神やとる世は爲として身も思ふ身の爲にして世を思は祈らす

玉葉集

伏見天皇御製

いふはに安き吾身をははりしきくるしむ民のこころ思は

新葉集

二品法親王深勝

民安く國をさほせといのるうな人よとらきみのたえ

新千載集

津守國夏

たこころを祈るを御代の爲なれを君と神とよ身ははらしつ

万葉集

今奉部與重布

たふよまいかかり見なくてたか君は志この御楯をたて立は

同

大君造人戸呂

大君のみとらうとみ磯よふたうのをら渡る父母をたきて

新葉集

中務卿宗良親王

海原

君の爲世のため何うをいからむ捨てるある命なをせば

承久紀

鏡月房

勅なまは身といよせとき物部の八十氏川に瀬よをたしぬと

夫木集

中實朝臣

いさなきのみとの時に定めてきこり君うしよ世にまことと

別雷社哥合

左大辨雅頼

子と思ふ道よそ祈はらしきよ仕ふるあたとたうしとらなむ

東哥

橘枝直

ねるうこの親に似よと、思をねとをへたうる、子の行へり神

万葉集

他田舍人大島

から衣裾にとははななく子をたきてそきぬやれをなうよして

同

よみ人老らそ

おの訛母

ぬをたきてこれをとむのむあさむすたしにる行て天路しらす

古郷紀行

平景隆

たかして親さかりせはいかよして君の恵を吾は受くしき

六帖詠草

小澤盧庵

家とみてあかぬとなくつかふともむくいむをのめれやのめくみや

句題和歌

大江千里

秋の日は山の端近しくれぬまよ母よ見えあむ歩めしが駒

吾

万葉集 丈部奥麻呂

とささくよ花は咲けともふよそれそよこふ花のささくよささくよ

後撰集 八歳女

咲出 來

神無月時雨ふるよとくろく日と君待ほとささくよとささくよ

大平記 八歳宮恆良親王

長

つくつくと思ひくらしと入相れかねを聞よを君を戀し

万葉集 上丁平麻呂

水鳥のよらのいそぎに父母に物いはさげにこいませ悔し

同 物部手力良

來

とか母の神をちなて我からよなき心とわすらえぬか

雲葉集 權僧正榮西

そつこしの梢もひさし日の本のをよその紅葉散や志ぬらん

家集 源道濟

よれことよ成よんせとちらちねのねなよとまよて夢よ見え

万葉集 讀人不知

暗夜の行とささくよとすゆく我れいつきまさんと問ひよ

何時來坐

大君のととかいとみかなと妹か手枕をなせ夜とちきぬかも

同

同

防人よ行ハをらせとよふ人をみるかともよとささくよをひもせず

美 物 思

信濃路をい下のはり道かいはぬ足ふまよむなつとけとかせ

新葉集待覽門院

聖

九重の玉れうても夢ふれや苔の下より君をねもは

古事記豊玉毘賣命

あか玉の緒とよむらぎとささくよ玉のきみかよそむらふと有たり

日本紀 國依姫

山城のつよきけ原の物まをすこらせとみれをさみたくま

續後拾遺集

前關白基忠

目の前よつらなる枝をのれ行てかよるくち木のさと残らん

万葉集

御名部皇女

我れや君物を思かよとめ神のつきて賜へるとれさげさよ

新葉集後村上天皇御製

繼

年経るふふれとまひの秋はあれと月は都と思ひやらさむ

同

中務卿宗良親王

いひよせむ月を都とむかりそふ君とみのひの秋のゆかし

拾遺集

參議好古

千年へて君しいるせほせしちきけあめれ下こそうしる安々れ

設吟集

阿闍梨契沖

別きまて友を思ひいさむらふてさしし程のうとまなりなり

古今集

伊香子淳行

たきしとも身をしのむをめよ見ぬ心を君うしりてそなる

詞花集

僧都清胤

ぬづつさき心れ君よとよめ置て吾としこれよとかれぬる哉

家集

賀茂真淵

よく行てよくかへりもてしちねけおたらぬみまのんたをみませ

風雅集光嚴天皇御製

こりくもり寒きあつきも時として民よ心のやすむまもあし

新葉集後醍醐天皇御製

身よかへてたをふとてよをささせを民の心のせもあしんぬ

續後拾遺集後醍醐天皇御製

なかくくく人より物を思ふか世扱れをふ身のことろつて

新古今集後鳥羽天皇御製

たぐ山のたをるか下を踏こひて道あるせそと人可くさせむ

土佐日記

紀貫之

世の中よ思ひやれとを子扱とある思ひよまことたをひかむらふ

新古今集

源道濟

はらふといふよをいと涙のとかしること世扱このとたるらふ

百首

慈照院左大臣義政

たつかなる身と歎くにをたらち母の親のいさめとこひぬ日をな

万葉集

若倭部身麻呂

とが妻はいくことひらけむ木よかこそへみえとよふとせられす

同

讀人不知

影

あり磯と之外ゆる波のほかこそ我にたをを命をぬとを

三草集

少將定信

子扱れをふ心の道のこころをそたやよつかへ世の中のひ

新勅撰集

左中將公平

身にそよよいかにあらん人志をぬ心をつることなるらすと

春葉集

荷田東滿

み後守ることるのせむとてくハ世をまらふのひかへ出ん

家集

平篤胤

日の本に大木のそとの神かへり四方に木草をとめてまけ

家集

大國隆正

みづるを、神をたすむらんあなを、人をたふらむ異國のふぬ

定價十五圓

明治八年六月十二日

岡山縣貫屬士族

願上

著者 上田及洲

同 八月四日

岡山縣管下第四區一番小區
末山町百八十一番屋敷居住

官許

大坂府下平民

出板人 田中太右衛門

大坂府下第二區六小區
安堂寺橋通四丁目世八番地

弘通書肆

岡山縣下中之早

渡邊源米

備中倉舖

西澤六藏

